

世界に生きる、世界をつくる！

所属	愛知県立刈谷北高等学校	実践者	浦部 紗矢 (G)
対象	高校2年生(国際理解コース生徒)	時間数	6時間(50分×2×3回)
場所	本校化学室	実践教科	国語
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化を尊重し、異文化理解を楽しむ。 ・外国と日本とのつながりに気づき、自分の生活も世界に支えられていることに気づく。 ・世界で起きている問題を知り、自分にできる解決策を考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	「グローバル化する社会 だから世界はおもしろい！」 1. 世界とのつながりに気づこう →教室の中にあるもの、カードマッチング、鎖国ゲームを通して世界と自分の生活とのつながりに気づく 2. 様々な国、様々な生活 →いろいろな国の人が変わってその国の特徴や文化を紹介した後、「わたしの当たり前＝あなたの当たり前？」を読む 3. ガーナってどんな国？ →PPTを使ってガーナの町並みや生活を紹介する	1. つながりカード、模造紙、マーカー 2. 配布物(各国紹介資料等) 3. ppt 資料
	2	「支え合う世界の国々 困っている国がある!？」 1. 誰だって自分の国に誇りがある！ →ガーナの文化・歴史についてのクイズの後、外国人に伝えたい日本の良さや日本の好きなどころを考える 2. 大震災が起こったそのとき… →東日本大震災に対する各国の支援のデータや英語の記事を読む 3. 世界に困っている人がいる！原因は？ →環境に関する資料と「伝説のスピーチ」を読み、情報を交換する 4. 「私たちにできること」 →環境のために自分にできることを考え、班ごとにまとめて発表する	1. ppt 資料、模造紙、マーカー 2. ppt 資料、配付資料 3. 配付資料 4. 模造紙、マーカー、ふせん
	3	「全ての原因は貧困？ よりよい世界を作るために…」 1. ガーナの教育事情 →公立・私立の学校の写真や現地の方の意識から気づいたことを発表する。お金があればより良い教育が受けられるのか？ 2. 貧困ってどういうこと？ 貧困から人々を救え！ →貧困の資料を読み、「貧困の輪」から改善の手立てを考える。また、フェアトレードやマイクロクレジットの概念と意義について知る 3. 世界のために頑張る日本人 →ガーナで支援を行う日本人の支援内容と想いを知り、もし自分が青年海外協力隊に応募するなら…という仮定で、協力できる分野を考える 4. あなたも私も住みやすい、理想の社会7 →大人になったら作りたい社会を考え、班ごとに発表する	1. 写真、ppt 資料、配付資料 2. 貧困の輪カード、配布資料、フェアトレード商品 3. ppt 資料、配付資料 4. 模造紙、マーカー、ふせん
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換などの活発な活動を通して、自分の意見を持つことの大切さに気づいた生徒がいた。 ・事後アンケートを実施したが、多くの生徒が「『もったいない』の気持ちが育った」「フェアトレードのチョコレートを買った」「青年海外協力隊に興味が出た」など、自分にできる国際貢献の道を考えるようになったと答えた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解コース生徒を対象にしたものの、「海外に興味がないため、特に自分の生活に変化がなかった」と答えた生徒がいた。生徒の興味を事前に確認し、それに見合った内容を提供することの必要性を感じた。 		
備考	実施授業は、学校設定科目の「国際文学研究」と「総合英語」である。		

[授業実践の詳細]

1 時限目「グローバル化する社会 だから世界は面白い！」(100分)

1 子どもの活動の流れ

- ① 教室の中にある世界と繋がっていると感じるものを班単位で挙げた後、つながりカードを使って様々な国と日本との具体的なつながりに気づく<教材1>。また、鎖国ゲームを行い、海外とのつながりを絶つと日本の生活にどのような影響が出てくるのかを考える。
- ② 1人につき1カ国の詳細を書いた資料を読み、その国の人になりきって他の班員に国を紹介する<教材2>。その後「わたしの当たり前=あなたの当たり前？」を読み、日本で当たり前のことでも文化によって受け取り方が異なることを理解する<教材3>。
- ③ ガーナクイズの後、ガーナの生活や文化に関するスライドを見る<資料4>。

この時限のねらい

- ・世界と日本のつながりに気づかせる。
- ・世界に多様な文化や生活があることを知り、異文化理解を楽しめるようにする。
- ・他者の考え方を肯定的に受け止め、物事を様々な角度から見させる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 最初に少し戸惑いはあったが作業に慣れるに従って活発な活動となり、振り返りでは「他の人が、自分が気づかないような所に気づいていた」、「他の人の意見が聞けておもしろかった」という意見も出た。
- ◇ 自分の生活と世界のつながりを意識するきっかけとなった。また、海外諸国、特に開発途上国への興味がわいたという意見が多く出された。



写真:スライドを真剣に見てくれる生徒

3 使用した教材

- <教材1>つながりカード…(公財)愛知県国際交流協会『世界の国を知る・世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来 活用マニュアル ver2.』(以下「活用マニュアル」という。) 8. つながり 資料2)
- <教材2>(公財)愛知県国際交流協会『世界の国を知る・世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来』エクアドル編(P.5,6,9,10)、マーシャル諸島編(P.5~10)、フィリピン編(P.5~8)、カナダ編(P.5~10))
- <教材3>わたしの当たり前=あなたの当たり前?…「活用マニュアル」4. 多様性 資料4)
- <教材4>パワーポイント資料



2

時限目「支え合う世界の国々 困っている国がある!？」(100分)

1 子どもの活動の流れ

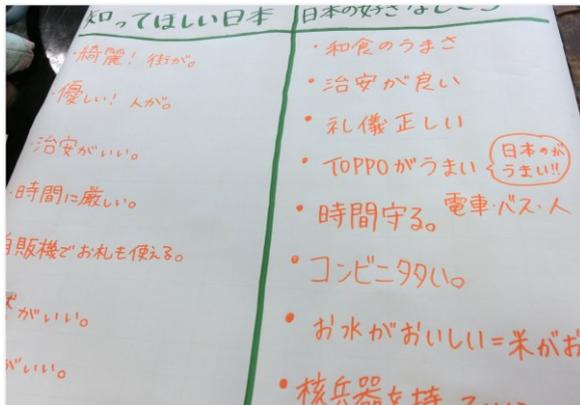
- ① スライドでガーナの文化・誇りに関するクイズを解いたあと<資料5>、班で「外国人に知ってほしい日本」、「日本の好きなおところ」を対比表で考える<成果>。日本文化を見つめ直すと共に、私たちの生活の便利さ、快適さも支えているのは世界の助けがあつてのことだと気づく。
- ② 東日本大震災の際の海外からの援助の内容を知る<教材6>。また、民間レベルでも様々なエールが届いたという資料を英文で読んで班内で情報を共有し<教材7>、「自分にできることをする」ことの大切さに気づく。
- ③ 「環境・資源」に関する資料を読み、分かったことを班内で共有する<教材8>。「セヴァン・スズキの地球サミットでの伝説のスピーチ」を読む<教材9>。
- ④ 各自「地球のために今できること」を付箋に書いていき、班ごとにKJ法でまとめて発表する<成果>。

この時限のねらい

- ・自国を愛し、それぞれの文化の中で生きることの共通性に気づかせる。
- ・世界は助け合いにより成り立っていることに気づかせる。
- ・環境問題を自分の問題としてとらえ、環境のために今自分にできることを考えさせる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 東日本大震災後、これほどまでに世界中からの支援があつたことを初めて知った生徒もいた。
 - ◇ 小さなことを積み重ねていくこと、身の回りの生活を見直すことの重要性に多くの生徒が気づいた。
- <成果> 「知ってほしい日本、日本の好きなおところ」 「地球のために今できること」



3 使用した教材

<教材5> ガーナクイズ(例:右写真)

<教材6> 東日本大震災に対する海外諸国の援助資料

諸外国等からの支援申し入れ
(東日本大震災)(平成23年5月19日)

(アジア)

インド、インドネシア、韓国、カンボジア、シンガポール、スリランカ、タイ、中国、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、東ティモール、フィリピン、ブータン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、モルディブ、モンゴル、ラオス、台湾、香港



★ 第5問

★ この彫刻、何を象徴しているでしょう?

一本の木から作られたこの彫刻は「UNITY」と呼ばれ、**民族の団結**や、**家族**を象徴しています。
素敵でしょ? (´ω`*)

★ 3. **団結**



2011年
タイ・プーケットにて

<教材7> 浜島書店『catch a wave』2011年5月13日号(P.6~7)

<教材8> (公財)愛知県国際交流協会「わたしたちの地球と未来」マーシャル諸島編(P.25,26)、マレーシア編(P.25,26)、「活用マニュアル」5. 環境 資料3

<教材9> (公財)愛知県国際交流協会「わたしたちの地球と未来」マーシャル諸島編(P.24~26)

3 時限目「全ての原因は貧困？ よりよい世界を作るために……」(100分)

1 子どもの活動の流れ

- ① ガーナの公立・私立の学校を見比べ、気づいたことを挙げていく<教材10>。その後、農家の方から聞いた『『よりよい教育のために』私立に転校させたい、そのためにお金が必要』という意見を伝える。
- ② 貧困の輪を使い、貧困の悪循環とそれを断ち切るための支援を考えて一点ずつ発表する<教材11>。一つの支援で全体が良い方向に行くことを確認する。また、フェアトレードやマイクロクレジットの概念と意義を知る<教材12>。
- ③ スライドで JICA の支援内容と、実際にガーナで働く人たちの活動内容と思いを知る。また、青年海外協力隊の派遣要請一覧を使って、自分ならどれに応募したいかを考える<教材13>。
- ④ 「大人になったら作りたい理想の社会」について考え、班ごとに発表する。<成果>

この時限のねらい

- ・貧困が及ぼす悪影響について考え、それを断ち切るための手立てを考えさせる。
- ・困っている人々を救うために自分にできること、特に今後の生き方を考えさせる。
- ・自分がどのような社会を作りたいか考える。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 「たった一つのことから良いサイクルが生まれ、国全体が良い方向に向かう」ことに気づき、自分たちの将来や海外との関わり方を考えるよい機会となった。
- ◇ 多くの生徒が青年海外協力隊の活動への関心を強くした。実際に参加してみたいと言う生徒も多かった。

<成果> 「私たちが考える理想の社会7」(例:右写真)



3 使用した教材

<教材10>

ガーナの公立小学校と私立中学校

<教材11> 貧困の輪

<教材12>、<教材13>

使用スライド(次ページ)





ODAとは？

- 開発途上国の社会・経済の開発を支援するため、政府をはじめ、国際機関、NGO、民間企業などさまざまな組織や団体が経済協力をを行っています。これらの経済協力のうち、政府が開発途上国に行う資金や技術の協力を**政府開発援助 (ODA: Official Development Assistance)**とします。

外山百合子さん (青年海外協力隊)

日本では助産師をしています。今は、ガーナの小学校で保健室の運営に携わっています。この学校は、貧しく、地域の診療所にも通えない人が多い地域にあります。ガーナには、保健室がある学校が3校しかなく、運営のノウハウがありません。

■ 全体を通して

1 授業の様子

学校 ESD の一環として一連の授業を行った。全体的に活発な活動となり、生徒からも好評であった。事後アンケートでも「またやりたい」、「自分たちでもやってみたい」という声が多く聞かれた。それまでは欧米への興味が強かった生徒が、「もっといろいろな国のことを知りたい」、「実際にフェアトレードチョコレートを買った」、「青年海外協力隊に参加してみたい」、「大学で今回の ESD で扱ったような内容の研究がしたい」、と言うようになった。また、それ以外にも「人の意見を聞くうちに、自分もしっかりした考えを持たなければいけないと思った」と言う生徒もいた。生徒の意識や行動を変えるきっかけとなる授業となり、非常に有意義であった。

<写真1>カードマッチングをする生徒たち



<写真2>「日本の好きなおとこ」アイデアを出し合う



<写真3>自分の読んだ資料を班員に説明する



<写真4>「地球のために今私にできること」発表中



2 参考文献・資料

- 1) 高根務・山田肖子編著『ガーナを知るための47章』明石書店
- 2) 外務省ホームページ <http://www.mofa.go.jp/>
- 3) JICA ホームページ <http://www.jica.go.jp/>
- 4) (公財)愛知県国際交流協会『世界の国を知る・世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来』シリーズ